

80年前発行の本を読む

上原 昇 (2組)

「木曾路はすべて山の中である」で始まる小説『夜明け前』を知っている信州人は多いこと
と思う。ただこの長編小説を読破した人はそんなに多くはないだろう。

私もその通りで、著者、島崎藤村が信州木曾の馬籠（現在の岐阜県中津川市）生まれの文豪
であることを知って、学生時代に『破戒』など数々の小説を読んでいたが、『夜明け前』は
取っ付きにくく、これまで読んでいなかった。

この夏、思い立って約80年前に父親が所蔵していた本を書棚から取り出して読んでみた。
藤村が『夜明け前』を執筆したのは1929（昭和4）年から1935（昭和10）年にかけてで
あり、単行本は第1部が1932（昭和7）年、第2部が1935年に新潮社から刊行されてい
る。

私が読んだ本は、藤村文庫として全10篇が刊行されている、その第1、2篇（上下巻）で、
第1篇が1939（昭和14）年発行の113版（732ページ）、第2版も昭和14年発行の74
版（728ページ）である。（写真）

当時の定価が1、2篇とも2円30銭とあるが、写真でも伺える通り、デザイン的にモダン
で立派なハードケース付きの装丁で、今なら1冊4、5千円はすることだろう。

80年以上放ったらかしにしていたこともあり、活字は擦れ、汚れも目立ち、旧仮名遣いで
読みにくいこと甚だしい。上下巻を読破するのにたっぴり1ヶ月はかかった。

途中から、昭和29年発行され今でも版を重ねている新潮文庫を脇に置き、参照しながら読

み進めた。これから読んでみたい
と思われる諸氏には、この文
庫版をお薦めする。

名著は何年経っても、印字は薄
れても、内容
は色褪せず
名著であり
続けるので
あろう。



昭和14年発行の『夜明け前』上下巻)



島崎藤村

(2023年9月11日記)

以上